

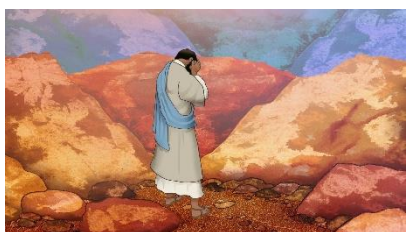
## 荒野のゆうわく

(マタイ4・1～11)

きょうは児童祝福礼拝です。小さな子供たちから大人の皆さままでを意識してお語りします。お聞きください。

### 一、荒野に行かれた

荒野ってどんな所か、分かりますか。草や木はありますが、食べるものはありません。荒野で生活しようとしたらたいへんです。ですがイエスさまは、荒野に行かれました。しかも四十日間です。イエスさまは、何を食べられたのでしょうか。草でしょうか？ 何も食べられませんでした。水は、ヨルダン川の水を飲まれたと思います。



イエスさまは、神が人となられたお方でした。なのに、どうして荒野に行かれたのでしょうか。それは、父なる神さまが、荒野に導かれたからです。荒野に行つて、お祈りをするように、導かれたからです。

### 二、「パンになるように命じなさい」

四十日がたちました。何も食べていませんでしたから、お腹が空いてペコ

ペコです。すると、

一人の人が近づいて来ました。人間だったのか、幻だったのかは、分かりません。そして言いました。「あなたは空腹を空かしているね。同じように、世の中には、食べるものが



なくて困っている人が、たくさんいる。あなたが救い主で、特別な力を持っているなら、その力を使って、石をパンに変えたらいいじゃないか。大勢の人が助かるぞー！」と。イエスさまはおっしゃいました。「そうではない。人間が生きてするために必要なのは、神の口から出ることばだ。すぐに満足できないかも知れないが、人間に必要なのは神のことばだ。人間は神のことばによって生きる」と。

### 三、語りかけたのは悪魔だった

もう皆さんはお分かりになったと思います。イエスさまに語りかけたのは、悪魔でした。悪魔は目に見えない存在です。だから、何気無いことばを使って語ることもあれば、心の中に語りかけてくることもあります。イエスさまのお弟子のペテロが、悪魔になったこともあります。それはイエスさまが、御自身が苦しみを受けて殺されると語

ったときのことでした。ペテロは言いました。「イエスさま、とんでもないことです。そんなことが起こっては困ります」と言いました。すると、イエスさまはおっしゃいました。「下がれ、サタン」と。この時ペテロは、イエスさまのためと思って語りましたが、実はサタン、すなわち悪魔になっていました。悪魔は、親しい人を用いることもあれば、

心の中に語りかけてくることもありま

### 四、神殿の屋根に連れて行った

次に悪魔は、イエスさまを、エルサレムの神殿に連れて行きました。おそらく、幻のうちにでしょう。ここは神殿の屋根です。屋根から下まで30キュービト、5階建のビルの高さぐらいあります。

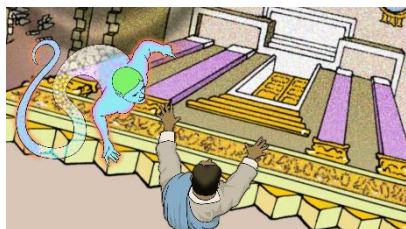


### 五、「下に身を投げなさい」

悪魔はイエスさまに言いました。「あなたが神の子、救い主なら、飛び降りてみなさい。聖書に、こう書いてある。『神は御使いたちに命じて、あなたの足が石に打ち当たらないようにする』と。神の子イエスさまはおっしゃいました。

「聖書には『神を試みてはならない』とも書いてある」。これを私たちに当てはめると、「あなたは教会に行つて礼拝をさ

さげていますね。あなたは守られていますから、交通事故には遭いません。わざわざに遭う

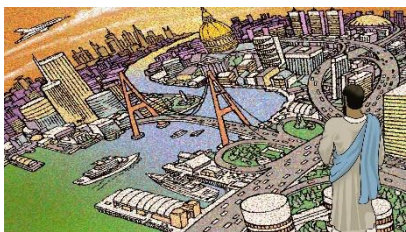


こともありません。コロナにかかることもありません。泥棒に入られることもありません。神が御使いたちに命じて、あなたを守つておられるからです」と、説教者が語るようなものです。もちろん出かけるときは、神さまが守ってくださいるようにお祈りをしてから出かけます。だからといって、わざわざに遭わないことはありません。ですから、「神に守られているから」と考えて、取って危険な場所に行くのは、よくありません。神さまを試みることになり

### 六、神殿より高い所に連れて行った

それでも悪魔は引き下がりません。最後に悪魔は、イエスさまを神殿の屋根よりも高い所に連れて行きました。もちろん、幻のうちにでしょう。そこからは、この世の繁栄が見えました。多くの人々が行き交っていました。高層ビ

ルが建ち並んでいきます。しかもすべてがきらびやかです。と、そんなことは、聖書には書いてありませんが、聖書に書かれていることを今の時代に当てはめるとそのようになるということ



## 八、「これをすべてあげよう」

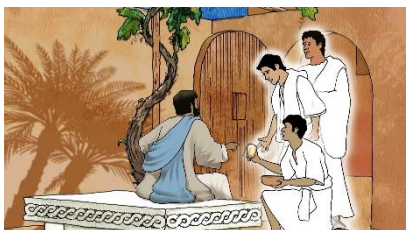
悪魔は言いました。「すべてあなたにあげる。神のことは忘れて、もっと伸び伸びと生きなさい。なぜ窮屈な生活を選ぶのか。あなたの才能を生かしなさい。あなたほどの実力があるなら、人々のトップに立つことができる。人々がうらやむような生活ができる。きょうを境に、窮屈な生活と別れなさい。自由に、伸び伸びと生きなさい」と。そして気がつく、日本でも有名な人になり、収入も増え、メディアにも姿を現すようになり、やがて世界的に有名になりました。そうしますと、毎週神さまに礼拝をささげることがむずかしくなり、



「毎週礼拝に行く必要もないか？」と思ひ、だんだんと礼拝に行かなくなりました。そして、「元気に活動している反面、神さまの力が去って行き、たましいが死んで行きます。神の子イエスさまは、何とおっしゃったでしょうか。「下がれ、サタン。『あなたの神である主を礼拝しなさい。主なる神さまにのみ仕えなさい』と書いてある。」と言われました。悪魔は嘘つきです。だまされてはなりません。

## 九、悪魔はイエスを離れた

こうして悪魔は、イエスさまから離れた。そして、御使いたちが近づいて来て、イエスさまに仕えたと、聖書に記されています。誘惑は、子供の頃から やがて死ぬまで、ずっと続きます。「自分が神のようになりたい」と思ふ、欲があるからです。神を信じ、神が遣わされたイエス・キリストを信じる

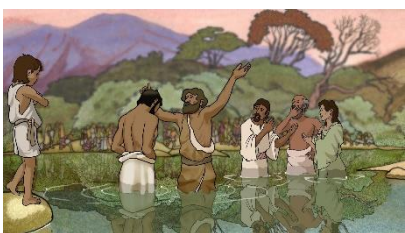


とき、悪い欲が消えて行きます。ですが、消えたと思っても残っていますから、それを知っておく必要があります。悪い欲から守られるためには、毎週神さまに礼拝をささげることがたいせつです。

ところで、人が誘惑に遭うのは、自分の欲に引かれるからです。では、罪のない神の子イエスさまが誘惑に遭われたのは、なぜでしょうか。それは、この絵に表れています。

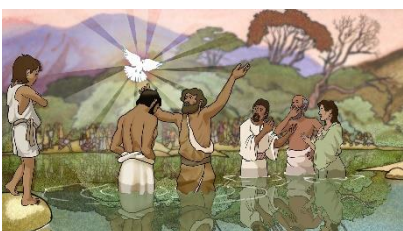
## 十、「今はそうさせてほしい」

ここはヨルダン川です。神さまから遣わされたヨハネという人が、バプテスマを授けていました。人々が、自分中心の生活を改める決意をさせるためです。ある日のこと、イエスさまがヨハネの所に行かれました。バプテスマを受けるためです。ヨハネは神さまから示されて、イエスさまがどんな方かを知っていました。ですから、イエスさまがバプテスマを受けると申し出られたときに、慌てました。イエスさまはおっしゃいました。「今はそうさせてほしい」と。イエスさまは神が人となられたお方でした。ですが、十字架の道を歩まれ始めるとき、私共と同じ人間として、歩みを始められました。



十一、御霊が鳩のように降られた  
すると、天が開かれ、神の御霊が鳩のようにイエスさまの上に降られました。天から声がありました。「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ」と。

イエスさまは神でありながら、私共と同じ歩みを始められました。だから人間として、私たちと誘惑を受けられました。



※視覚教材は、

<https://freeibleimages.org/>

よりダウンロードしました。